資料１

第4回
公共施設のあり方検討委員会

ー明日のいなざわが輝くためにー

平成24年7月4日
稲　沢　市

本日の議題

本日の議題

① 改革の目玉　PARTⅢ

② 小中学校の見直し案

③ 明治市民センター等の見直し案

④ 祖父江町青少年ホームの見直し案

2

改革の目玉

3

改革の目玉

① 小中一貫教育の導入

② こども屋内遊園地を開設
～いなッピーランド・プロジェクト～

③ 福祉とボランティアの拠点を整備

④ 特別保育の拡充

⑤ 元気な高齢者を応援
～市民ふれあい農園、回想法～

⑥ オリンピック選手との交流

⑦ 市民窓口の休日開庁

4

こども屋内遊園地を開設

・平和らくらくプラザについては、
①年間1億円以上のランニングコストを要する割には、利用者が固定化されており、市民に広く親しまれる施設となっていないこと、
②入居する行政機関がそれぞれで機能しており、「世代間の交流」という建設時のコンセプトが十分に活かされていないこと、
などを勘案し、施設のリニューアルを検討する。

・新たな施設展開として、こども屋内遊園地の開設(「いなッピーランド・プロジェクト」)を提案したい。

・リニューアルに伴い、
児童館とお風呂は**存続**させる方向で検討し、それ以外の行政機関や施設機能に関しては、別の場所への**移転**も含めて検討する。

・利用者1人1回当たりの経費
バーディプール　1，310円
※利用料金(1回　400円)を除く。

5

いなッピーランド・プロジェクト

テーマ　　親と子が一緒に遊べる場所に

ママ・パパのことば

- □ 家でできないことをさせてあげたい！
- □ こどもと一緒に、親も楽しみたい！
- □ ランチやおやつを食べさせたい！
- □ きょうだいで連れて行っても、どちらも満足してほしい！
- □ 雨の日でも、たくさん遊ばせたい！
- □ 親どうしの憩いの場がほしい！

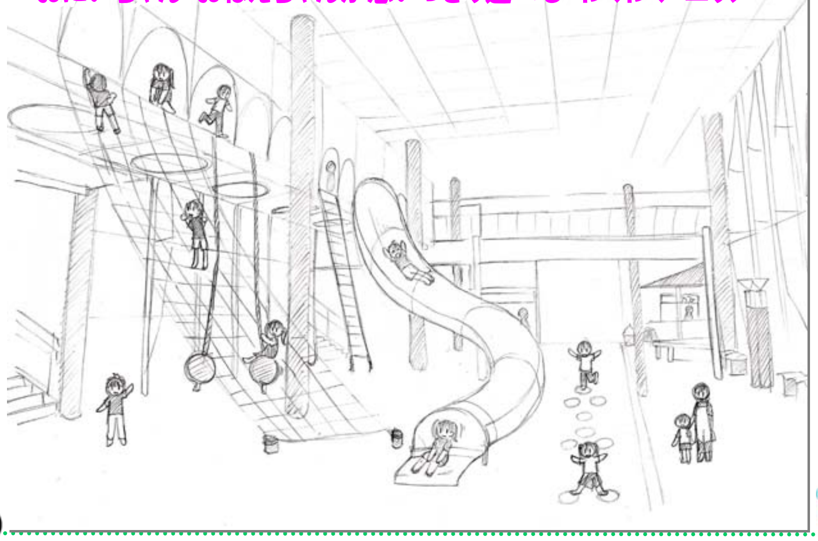
コンセプト

- ➢ 思いっきり体を動かして遊ぼう
- ➢ 五感に働きかける遊びをしよう
- ➢ 親子の憩いの場にもなるように

6

リニューアル・イメージ（1）

おにいちゃん・おねえちゃんが思いっきり遊べる“わくわく　エリア”



7

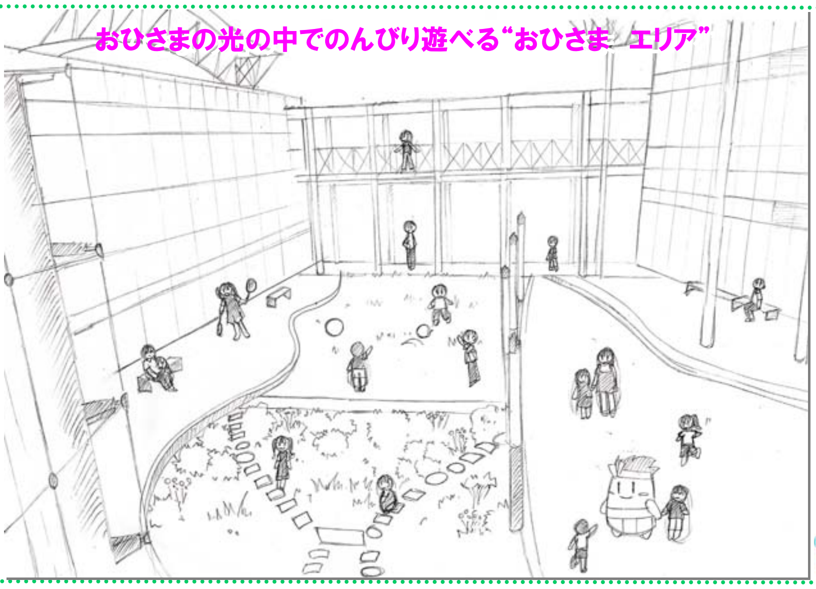
リニューアル・イメージ（2）

みんなで楽しく食べて遊べる“にこにこ　エリア”

8

リニューアル・イメージ（3）

おひさまの光の中でのんびり遊べる“おひさま　エリア”



9

各施設の
見直し案

10

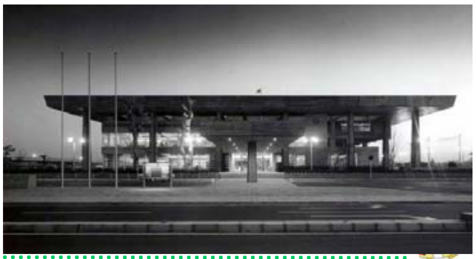
公共施設の見直し

11

公共施設の見直し

市は、
庁舎、市民センター、公民館、保育園、学校、社会福祉、保健、環境、文化、スポーツ、産業観光、住宅、消防、病院など、合わせて**190**の公共施設を保有。

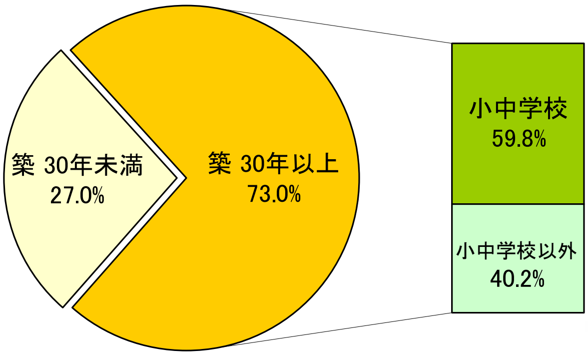
これらの施設運営に充てられる税収等の一般財源額を合わせると、21年度決算ベースで**81億6千万円**となり、これは、市の普通会計の一般財源総額（289億6千万円）の**3割**に相当する。



12

7割以上の施設が築30年以上

市の公共施設全190施設を延床面積で見ると・・・



13

公共施設の建て替え問題

市が保有する**190**の公共施設のうち、
建築後**30年以上**経過したものは全体の**7割**を占める。

これらの施設をすべて建て替えた場合、
総額**1，000億円**に上る投資となり、
これは市の一般会計予算の**2．4倍**に相当する。

公共施設の見直しによって、
施設の総量を減らして建て替え費用を大幅に**圧縮**する
だけでなく、
サービス提供のあり方や管理形態そのものを見直すことで
新たな財源を**確保**し、
防災や少子高齢化などの諸課題に
これらの財源を**振り向けていく**ことが肝要である。

14

借地の状況

・190の公共施設のうち借地を有するものは**52施設**で、全体の**3割弱**を占める。

・公共施設における借地の総面積は**24万3千㎡**。これらをすべて買い取った場合の価額は総額**117億円**に上る。

・23年度の借地料は**2億7千万円**。年々の借地料の支払いが、市にとって重い負担となっている。

【借地料上位7施設】

市民病院	39,553千円
稲沢中学校	32,901千円
稲沢西小学校	26,787千円
大里中学校	19,942千円
大里西小学校	16,379千円
平和中学校	13,360千円
大里東小学校	12,952千円

15

小学校・中学校

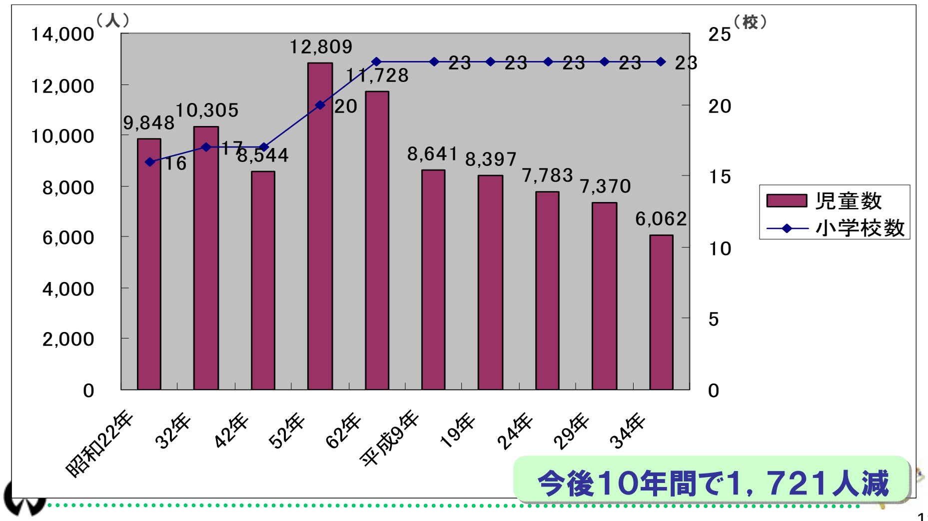
16

小中学校に関する課題分析

17

児童生徒数の減少（1）

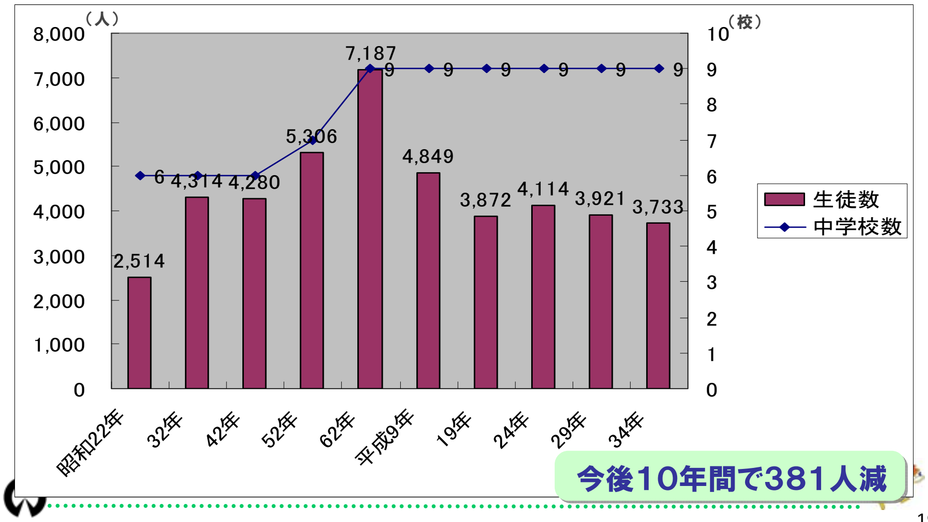
小学校の児童数と学校数の推移



今後10年間で1，721人減

児童生徒数の減少（2）

中学校の生徒数と学校数の推移



今後10年間で381人減

小中学校に要する経費

建て替え費用

1校当たり　18億円　×　30校　＝　540億円
（稲沢東小、平和中を除く）

年間維持管理費用（市負担）

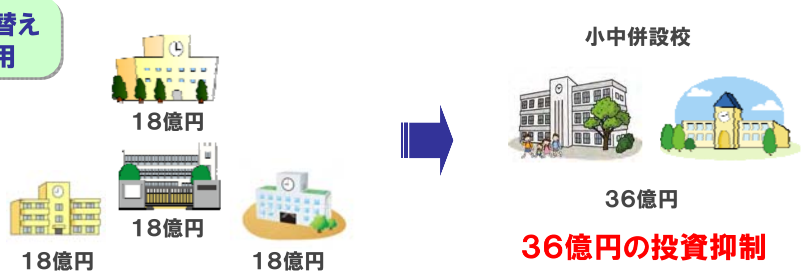
小学校	2，700万円	×	23校	＝	6億2，100万円
中学校	3，700万円	×	9校	＝	3億3，300万円
借地料	20校				1億8，300万円
計					11億3，700万円

（児童生徒1人当たり　96，000円）

20

投資の抑制と行政改革

建て替え費用



36億円の投資抑制

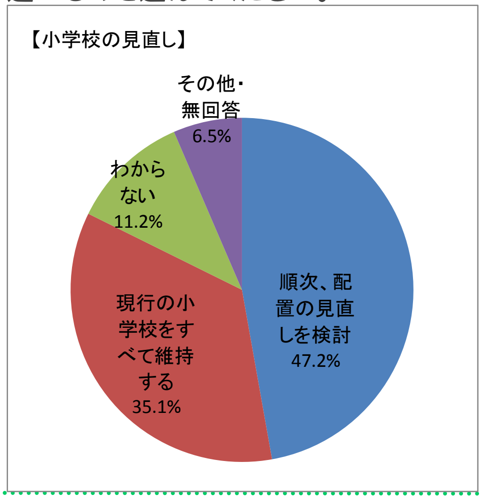
年間維持管理費用

6千万円の行革効果

21

市民アンケートの結果（1）

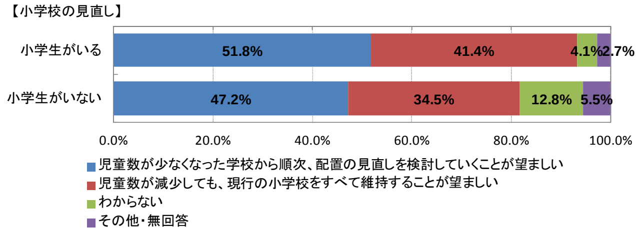
Q　小学校の今後のあり方について、あなたの考えに
　最も近いものを選んでください。



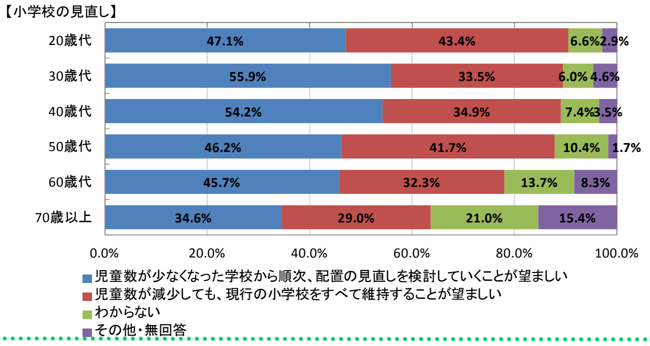
22

市民アンケートの結果（2）

小学生の有無



年代別



23

新たな学校建設を目指して

6・3制を維持した教育課程

前期						後期		
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学級担任制						教科担当制		

- 小中の教職員間の連携を深め、連続した学びの中で、子どもたちが確かな学力と豊かな人間性・社会性を身に付けられるようにする。
- 教科担当の教員を確保して、5年生から一部の教科で教科担当制を導入する。
- 中学校への分散進学を解消する。
- 児童・生徒の交流活動や、学校間の交流行事を定期的に開催する。

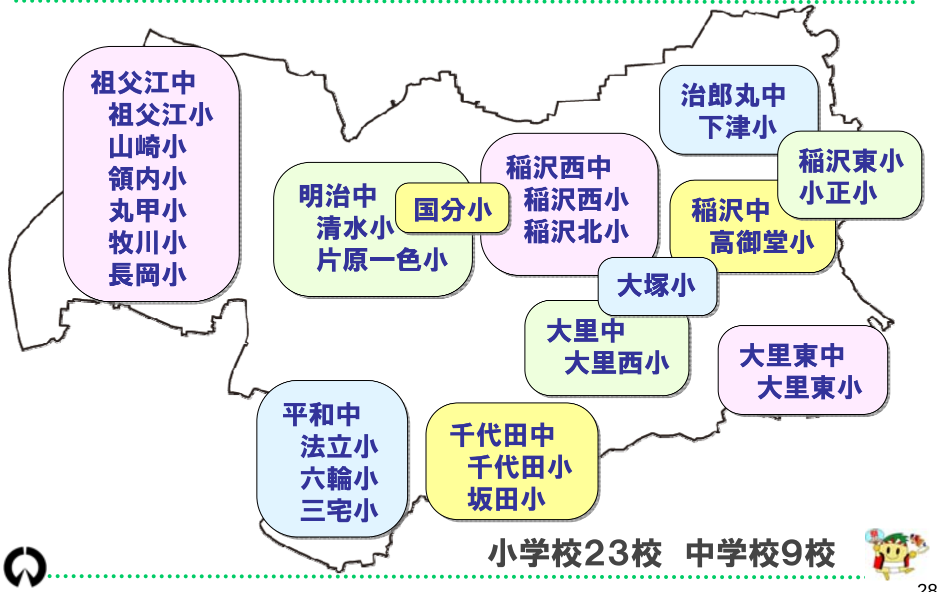
新設校のイメージ

26

小中学校の
見直し案

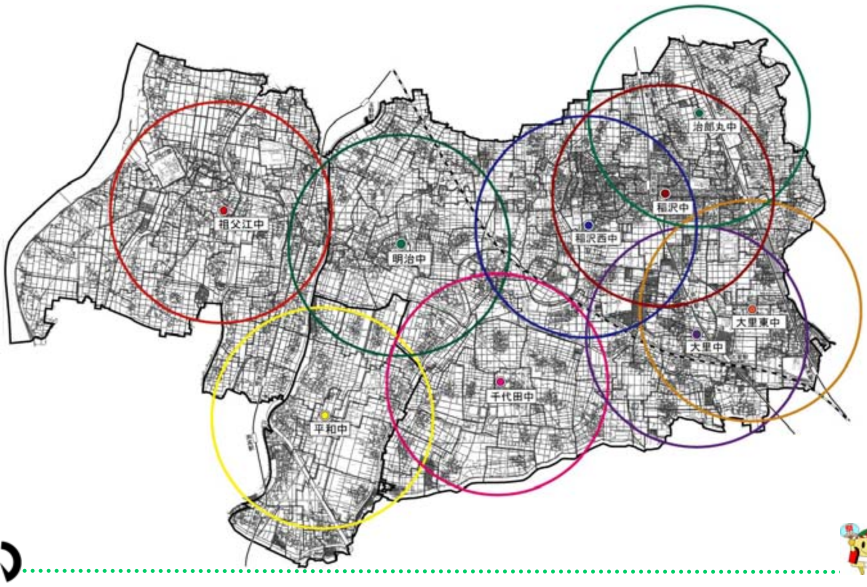
27

現行の小中学校



小学校23校　中学校9校

中学校の配置



見直しの考え方

見直しの方法としては・・・

①建て替えに合わせて、中学校区を単位に施設をまとめていく、

②かつての分離校を、元の母体校に戻していく、

③同じ小学校から同じ中学校に進学できるように
通学区域を見直していく、

という3つの考え方を基本とする。

30

見直し後の小中学校

小学校12校　中学校9校

31

見直し案の財政効果

建て替え費用

見直しの対象15校　⇒　新設3校　建て替え1校

1校当たり　18億円　×　11校　＝　**198億円**の投資抑制効果

年間維持管理費用（市負担）

小学校	2，700万円　×　11校　＝	2億9，700万円
借地料	清水小学校始め11校	4，100万円
計		**3億3，800万円**の行革効果

32

学校別の見直し案

33

稲沢中学校区

児童生徒数の推計

	24年度	29年度	34年度	24→34
稲沢中学校	423人	345人（△78人）	419人（74人）	△4人
稲沢東小学校の一部 （ 全 体 ）	236人 （847人）	239人（3人） （856人･9人）	178人（△61人） （638人･△218人）	△58人 （△209人）
大塚小学校の一部 （ 全 体 ）	9人 （499人）	18人（9人） （436人･△63人）	13人（△5人） （324人･△112人）	4人 （△175人）
高御堂小学校	191人	242人（51人）	256人（14人）	65人
小正小学校の一部 （ 全 体 ）	313人 （481人）	320人（7人） （493人･12人）	289人（△31人） （444人･△49人）	△24人 （△37人）

稲沢中学校・学校開放センター

現状と課題

・昭和52年建設。平成5年に校舎を5階建てに更新。
・体育施設開放の拠点となる学校開放センターを併設している。
・年間借地料　32，901千円

見直し案

・同じ小学校から同じ中学校へ進学できるようにするため、稲沢中の校区を、高御堂小の校区全部と小正小の校区全部を合わせた区域に変更する。併せて、稲沢東小の校区のうち、稲沢中の校区を治郎丸中の校区に変更する。

・全校生徒数

24年度（現行）		29年度（見直し後）	34年度（見直し後）
423人	➡	335人（△88人）	365人（△30人）

36

高御堂小学校

現状と課題

・昭和54年建設。全学年1クラス。

・開設当初は800人以上の児童がいたが、最近は毎年20～30人ずつ児童が減少している。

見直し案

・稲沢西小の建て替えに合わせて大塚小を統合し、同小の校区のうち、名鉄本線西側の稲沢中の校区を高御堂小の校区に編入する。

・全校児童数

24年度（現行）		29年度（見直し後）	34年度（見直し後）
191人	➡	242人（51人）	256人（14人）

37

小正小学校

現状と課題

・昭和56年建設
・校舎の一部で老朽化による傷みが見られる。

見直し案

・同じ小学校から同じ中学校へ進学できるようにするため、小正小の校区のうち、治郎丸中の校区を稲沢中の校区に変更する。
・稲沢西小の建て替えに合わせて大塚小を統合し、同小の校区のうち、名鉄本線東側の稲沢中の校区を小正小の校区に編入する。

・全校児童数

24年度（現行）		29年度（見直し後）	34年度（見直し後）
481人	➡	511人（30人）	454人（△57人）

明治中学校区

児童生徒数の推計

	24年度	29年度	34年度	24→34
明治中学校	389人	349人（△40人）	297人（△52人）	△92人
清水小学校	270人	219人（△51人）	206人（△13人）	△64人
片原一色小学校	158人	146人（△12人）	127人（△19人）	△31人
国分小学校の一部 （　全　体　）	240人 （406人）	176人（△64人） （297人・△109人）	154人（△22人） （260人・△37人）	△86人 （△146人）

40

明治中学校（1）

現状と課題

・昭和36年建設。その後順次増改築。

・市内の中学校で校舎が最も古く、老朽化が著しい。

・年間借地料　198千円

見直し案

・明治中の敷地を拡大して、清水小、片原一色小、国分小を統合した新たな小学校「明治小学校（仮称）」を新設する。

・小学校の新設に伴い、国分小の校区のうち、稲沢西中の校区を明治中の校区に変更する。

41

明治中学校（2）

見直し案

・全校生徒数

24年度（現行）		29年度（見直し後）	34年度（見直し後）
389人	➡	420人（31人）	333人（△87人）

・明治市民センター、明治公民館、明治スズラン児童センターについては、
①敷地がすべて借地であること、②施設が老朽化していること、
を踏まえ、明治中の建て替えに合わせて、同中の隣接地に併設移転する。

清水小学校

現状と課題

・昭和41年建設。その後順次増改築。1学年のみ1クラス。

・体育館の通風口から雨が降り込むため、ビニールでふさいでいる。

・年間借地料　７，686千円

見直し案

・明治中の敷地を拡大して、清水小、片原一色小、国分小を統合した新たな小学校「明治小学校（仮称）」を新設する。

・全校児童数

24年度（現行）		29年度（統合後）	34年度（統合後）
270人	➡	662人（392人）	593人（△69人）

片原一色小学校

現状と課題

・昭和44年建設。その後順次増改築。

・24年度から全学年1クラスになっている。

・年間借地料　７，０８１千円

見直し案

・明治中の敷地を拡大して、清水小、片原一色小、国分小を統合した新たな小学校「明治小学校（仮称）」を新設する。

・全校児童数

24年度（現行）		29年度（統合後）	34年度（統合後）
158人	➡	662人（504人）	593人（△69人）

国分小学校

現状と課題

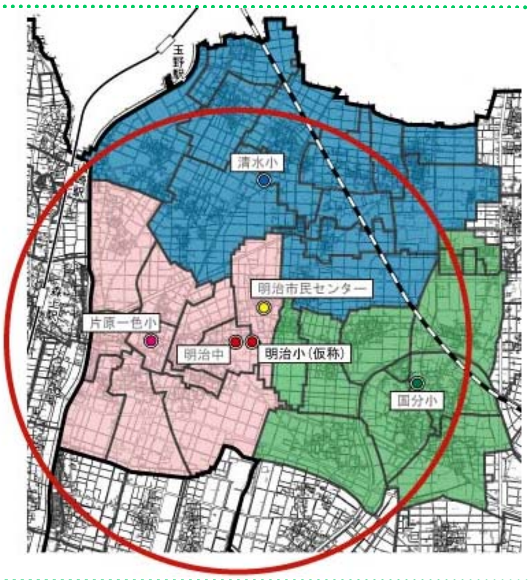
・昭和43年建設。その後順次増改築。
・敷地の制約から校庭が狭い。土も硬く、砂埃が舞って、教室まで砂が入り込んでいる。
・年間借地料　３７７千円

見直し案

・明治中の敷地を拡大して、清水小、片原一色小、国分小を統合した新たな小学校「明治小学校（仮称）」を新設する。
・小学校の新設に伴い、国分小の校区のうち、稲沢西中の校区を明治中の校区に変更する。
・全校児童数

24年度（現行）		29年度（統合後）	34年度（統合後）
406人	➡	662人（256人）	593人（△69人）

明治小学校（仮称）



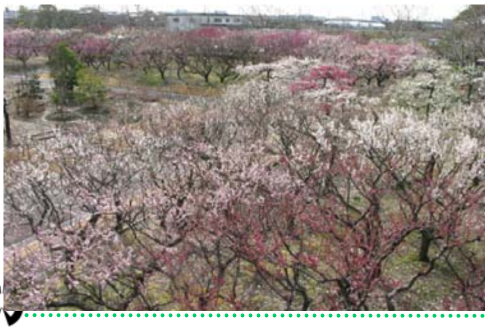
46

千代田中学校区

47

児童生徒数の推計

	24年度	29年度	34年度	24→34
千代田中学校	220人	228人（8人）	223人（△5人）	3人
千代田小学校	356人	324人（△32人）	233人（△91人）	△123人
坂田小学校	103人	96人（△7人）	87人（△9人）	△16人



千代田中学校

現状と課題

・昭和38年建設。その後順次増改築。
・学校プールが老朽化したため、隣接の市営千代田プールを授業や部活動で使用している。

見直し案

・千代田小、千代田中の間の市道を廃止して、小中連携校舎を新設する。

・全校生徒数
24年度（現行）220人 → 29年度 228人（8人） 34年度 223人（△5人）

千代田小学校（1）

現状と課題

- 昭和35年建設。その後順次増改築。
- 学区内は大半が市街化調整区域だが、地元に戻って複数世代で暮らすかたが多いため、児童数はほぼ横ばいを保っている。
- 年間借地料　９，439千円

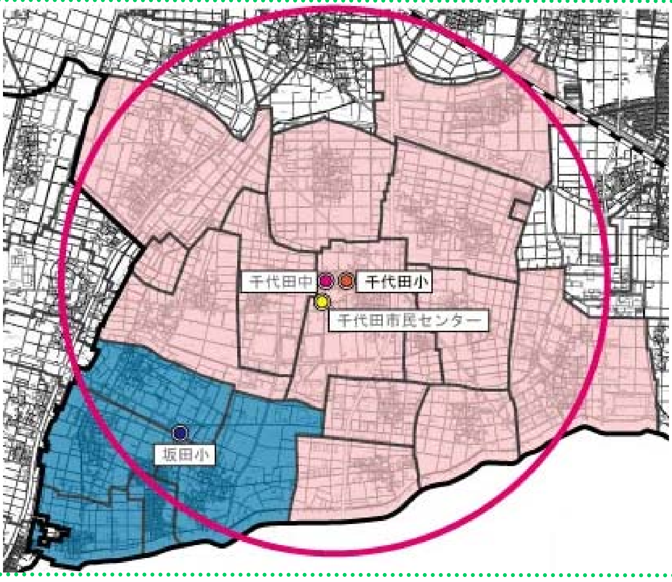
見直し案

- 千代田小に坂田小を統合する。
- 千代田小、千代田中の間の市道を廃止して、小中連携校舎を新設する。
- 全校児童数

24年度（現行）356人 ➡ 29年度（統合後）420人（64人）　34年度（統合後）320人（△100人）

50

千代田小学校（2）



51

坂田小学校

現状と課題

・昭和49年建設。その後順次増改築。全学年1クラス。

・合同の社会見学や読書郵便のやり取りなど、千代田小との交流を進めている。

見直し案

・千代田小に坂田小を統合する。

・全校児童数

24年度（現行）		29年度（統合後）	34年度（統合後）
103人	➡	420人（317人）	320人（△100人）

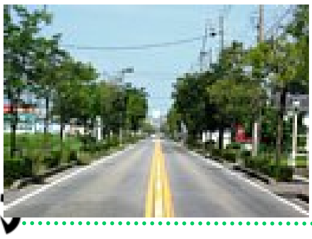
52

大里中学校区

53

児童生徒数の推計

	24年度	29年度	34年度	24→34
大里中学校	369人	336人（△33人）	294人（△42人）	△75人
大里西小学校	413人	358人（△55人）	344人（△14人）	△69人
大塚小学校の一部	262人	242人（△20人）	180人（△62人）	△82人
（　全　体　）	（499人）	（436人・△63人）	（324人・△112人）	（△175人）



54

大里中学校

現状と課題

・昭和37年建設。その後順次増改築。

・37年建設の北校舎に、地盤沈下している箇所がある。

・年間借地料　19，942千円

見直し案

・現行のまま存置する。

・全校生徒数

24年度（現行）	→	29年度	34年度
369人		336人（△33人）	294人（△42人）

55

大里西小学校

現状と課題

・昭和36年建設。その後順次増改築。

・校舎の一部で老朽化による傷みが見られる。

・年間借地料　16，379千円

見直し案

・稲沢西小の建て替えに合わせて大塚小を統合し、同小の校区のうち、大里中の校区を大里西小の校区に編入する。

・全校生徒数

24年度（現行）		29年度（見直し後）	34年度（見直し後）
413人	➡	600人（187人）	513人（△87人）

56

治郎丸中学校区

57

児童生徒数の推計

	24年度	29年度	34年度	24→34
治郎丸中学校	667人	731人(64人)	817人(86人)	150人
稲沢東小学校の一部 （　全　体　）	611人 (847人)	617人(6人) (856人・9人)	460人(△157人) (638人・△218人)	△151人 (△209人)
下津小学校	598人	832人(234人)	508人(△324人)	△90人
小正小学校の一部 （　全　体　）	168人 (481人)	173人(5人) (493人・12人)	155人(△13人) (444人・△49人)	△13人 (△37人)

58

治郎丸中学校

現状と課題

・昭和51年建設。その後順次増改築。

・下津地区の区画整理事業によって、生徒数が急増している。

見直し案

・同じ小学校から同じ中学校へ進学できるようにするため、治郎丸中の校区を、稲沢東小の校区全部と下津小の校区全部を合わせた区域に変更する。併せて、小正小の校区のうち、治郎丸中の校区を稲沢中の校区に変更する。

・全校生徒数

24年度（現行）667人 ➡ 29年度（見直し後）741人（74人）　34年度（見直し後）871人（130人）

59

稲沢東小学校

現状と課題

・平成23年に、給食棟を除いて全面的に建て替えたところ。

・クラス数が多いため、運動場、体育館、特別教室の割り振りに苦労している。

見直し案

・同じ小学校から同じ中学校へ進学できるようにするため、稲沢東小の校区のうち、稲沢中の校区を治郎丸中の校区に変更する。

・全校児童数

24年度（現行）		29年度	34年度
847人	➡	856人（9人）	638人（△218人）

60

下津小学校

現状と課題

・昭和47年建設。その後順次増改築。

・下津地区の区画整理事業によって、児童数が急増している。

・児童数の増加に対応するため、校舎の増築に着手している。

見直し案

・現行のまま存置する。

・全校児童数

24年度（現行）		29年度	34年度
598人	➡	832人（234人）	508人（△324人）

61

稲沢西中学校区

児童生徒数の推計

	24年度	29年度	34年度	29→34
稲沢西中学校	630人	635人（5人）	570人（△65人）	△60人
稲沢西小学校	543人	518人（△25人）	466人（△52人）	△77人
国分小学校の一部	166人	121人（△45人）	106人（△15人）	△60人
（ 全 体 ）	（406人）	（297人・△109人）	（260人・△37人）	（△146人）
大塚小学校の一部	228人	176人（△52人）	131人（△45人）	△97人
（ 全 体 ）	（499人）	（436人・△63人）	（324人・△112人）	（△175人）
稲沢北小学校	309人	334人（25人）	230人（△104人）	△79人

稲沢西中学校

現状と課題

・昭和58年建設。その後順次増改築。
・グラウンドの土が沈下し、砂が浮いて砂埃が舞う。

見直し案

・同じ小学校から同じ中学校へ進学できるようにするため、稲沢西中の校区を、稲沢西小の校区全部と稲沢北小の校区全部を合わせた区域に変更する。
併せて、国分小の校区のうち、稲沢西中の校区を明治中の校区に変更する。

・全校生徒数

24年度（現行）		29年度（見直し後）	34年度（見直し後）
630人	➡	564人（△66人）	534人（△30人）

稲沢西小学校

現状と課題

・昭和33年建設。その後順次増改築。
・平成25年度から建替工事に入る計画があるため、耐震化工事を行っていない。
・年間借地料　26，787千円

見直し案

・稲沢西小の建替えに合わせて大塚小を統合し、同小の校区のうち、稲沢西中の校区を稲沢西小の校区に編入する。

・全校児童数

24年度（現行）		29年度（見直し後）	34年度（見直し後）
543人	➡	694人（151人）	611人（△83人）

大塚小学校（1）

現状と課題

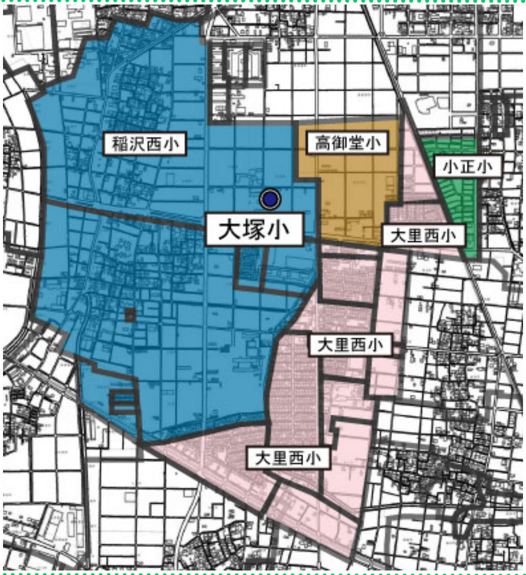
・昭和48年建設。その後順次増改築。
・一部の教室と職員室において、地盤沈下している箇所がある。

見直し案

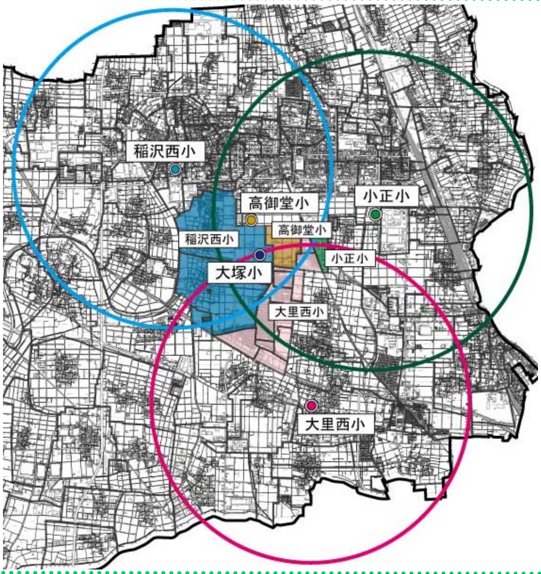
・稲沢西小の建て替えに合わせて大塚小を統合し、同小の校区のうち、名鉄本線東側の稲沢中の校区を小正小、同線西側の稲沢中の校区を高御堂小、大里中の校区を大里西小、稲沢西中の校区を稲沢西小の校区に、それぞれ編入する。

・全校児童数
24年度（現行） 499人 ➡ 統合後 0人（△499人）

大塚小学校（2）



大塚小学校（3）



68

稲沢北小学校

現状と課題

・昭和53年建設。その後順次増改築。

・24年度より校庭の角地に、学区を対象にした児童クラブ室を新たに
設置している。

見直し案

・現行のまま存置する。

・全校児童数
24年度（現行） 309人 ➡ 29年度 334人（25人） 34年度 230人（△104人）

69

大里東中学校区

児童生徒数の推計

	24年度	29年度	34年度	24→34
大里東中学校	378人	357人（△21人）	306人（△51人）	△72人
大里東小学校	724人	608人（△116人）	458人（△150人）	△266人

大里東中学校

現状と課題

・昭和61年建設。

・北市場地区の区画整理事業がほぼ完了した影響で、ここ数年は生徒数が約20人ずつ増加しているが、大里東小の児童数が減少しているので、いずれ減少に転じる見込み。

・年間借地料　３，026千円

見直し案

・現行のまま存置する。

・全校生徒数

24年度（現行）		29年度	34年度
378人	➡	357人（△21人）	306人（△51人）

大里東小学校

現状と課題

・昭和43年建設。その後順次増改築。

・北市場地区の区画整理事業の影響で児童数が増加していたが、平成22年度をピークに減少に転じている。

・年間借地料　12，952千円

見直し案

・現行のまま存置する。

・全校児童数

24年度（現行）		29年度	34年度
724人	➡	608人（△116人）	458人（△150人）

祖父江中学校区

児童生徒数の推計

	24年度	29年度	34年度	24→34
祖父江中学校	620人	583人(△37人)	511人(△72人)	△109人
祖父江小学校	206人	152人(△54人)	176人(24人)	△30人
山崎小学校	123人	127人(4人)	105人(△22人)	△18人
領内小学校	357人	296人(△61人)	288人(△8人)	△69人
丸甲小学校	130人	143人(13人)	119人(△24人)	△11人
牧川小学校	168人	151人(△17人)	138人(△13人)	△30人
長岡小学校	148人	126人(△22人)	128人(2人)	△20人

祖父江中学校

現状と課題

・昭和43年建設。その後順次増改築。

・体育館が2階建てで、標準より広い。アリーナの外周通路がジョギングコースになっている。

見直し案

・現行のまま存置する。

・全校生徒数

24年度（現行）		29年度	34年度
620人	➡	583人（△37人）	511人（△72人）

76

祖父江小学校

現状と課題

・昭和38年建設。その後順次増改築。4学年が1クラス。
・スクールリーダー制度を設け、地域の方に登下校の付き添いをお願いしている。
児童には、登下校時のヘルメット着用を義務付けている。
・年間借地料　468千円

見直し案

・祖父江支所、祖父江町勤労青少年ホームを別の場所に移転させた跡地を活用して、祖父江小、山崎小、領内小、丸甲小、牧川小、長岡小を統合した新たな小学校「祖父江小学校（仮称）」を新設する。

・全校児童数

24年度（現行）		29年度（見直し後）	34年度（見直し後）
206人	➡	995人（789人）	954人（△41人）

77

山崎小学校

現状と課題

- 昭和42年建設。その後順次増改築。全学年1クラス。
- 運動場の水はけが悪く、大雨が降るとプールのような状態になる。
- 年間借地料　656千円

見直し案

- 祖父江支所、祖父江町勤労青少年ホームを別の場所に移転させた跡地を活用して、祖父江小、山崎小、領内小、丸甲小、牧川小、長岡小を統合した新たな小学校「祖父江小学校（仮称）」を新設する。

- 全校児童数

24年度（現行）		29年度（見直し後）	34年度（見直し後）
123人	➡	995人（872人）	954人（△41人）

領内小学校

現状と課題

- 昭和35年建設。その後順次増改築。
- 職員トイレは1か所のトイレをベニヤ板1枚で男女に分けた状態。プライバシーが確保できず、利用するのが苦痛という声が多い。
- 年間借地料　1，165千円

見直し案

- 祖父江支所、祖父江町勤労青少年ホームを別の場所に移転させた跡地を活用して、祖父江小、山崎小、領内小、丸甲小、牧川小、長岡小を統合した新たな小学校「祖父江小学校（仮称）」を新設する。

- 全校児童数

24年度（現行）		29年度（見直し後）	34年度（見直し後）
357人	➡	995人（638人）	954人（△41人）

丸甲小学校

現状と課題

・昭和53年建設。その後順次増改築。全学年1クラス。
・運動場の砂が伊吹おろしで吹き上げられて、東側の鉄棒付近に大量に堆積している。
・年間借地料　860千円

見直し案

・祖父江支所、祖父江町勤労青少年ホームを別の場所に移転させた跡地を活用して、祖父江小、山崎小、領内小、丸甲小、牧川小、長岡小を統合した新たな小学校「祖父江小学校(仮称)」を新設する。

・全校児童数

24年度(現行)		29年度(見直し後)	34年度(見直し後)
130人	➡	995人(865人)	954人(△41人)

80

牧川小学校

現状と課題

・昭和48年建設。その後順次増改築。全学年1クラス。
・敷地の制約から、体育館の広さが標準と比べ狭くなっている。
・年間借地料　1,467千円

見直し案

・祖父江支所、祖父江町勤労青少年ホームを別の場所に移転させた跡地を活用して、祖父江小、山崎小、領内小、丸甲小、牧川小、長岡小を統合した新たな小学校「祖父江小学校(仮称)」を新設する。

・全校児童数

24年度(現行)		29年度(見直し後)	34年度(見直し後)
168人	➡	995人(827人)	954人(△41人)

81

長岡小学校

現状と課題

・昭和53年建設。その後順次増改築。全学年1クラス。

・長岡地区では、小学校の校舎が一番高い建物となっている。

見直し案

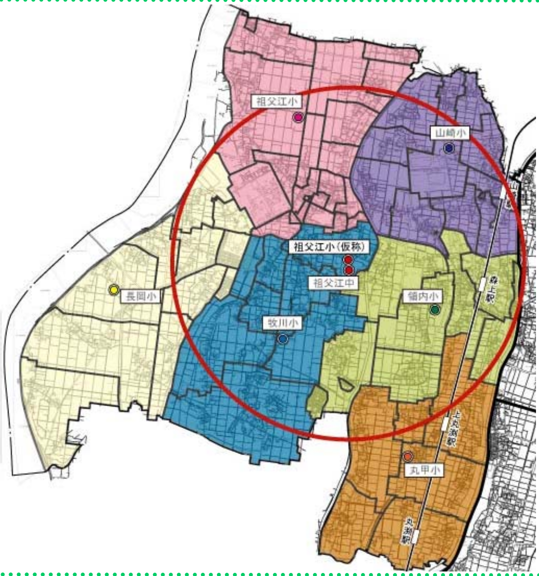
・祖父江支所、祖父江町勤労青少年ホームを別の場所に移転させた跡地を活用して、祖父江小、山崎小、領内小、丸甲小、牧川小、長岡小を統合した新たな小学校「祖父江小学校（仮称）」を新設する。

・全校児童数

24年度（現行）		29年度（見直し後）	34年度（見直し後）
148人	➡	995人（847人）	954人（△41人）

82

祖父江小学校（仮称）



83

平和中学校区

児童生徒数の推計

	24年度	29年度	34年度	24→34
平和中学校	418人	357人（△61人）	296人（△61人）	△122人
法立小学校	234人	171人（△63人）	168人（△3人）	△66人
六輪小学校	376人	322人（△54人）	254人（△68人）	△122人
三宅小学校	143人	123人（△20人）	105人（△18人）	△38人

平和中学校

現状と課題

・平成16年に全面建替え。
・市内の小中学校で唯一、全館に空調設備が整っている。
・年間借地料　13，360千円

見直し案

・平和中の敷地を拡大して、法立小、六輪小、三宅小を統合した新たな小学校「平和小学校（仮称）」を新設する。

・全校生徒数

24年度（現行）		29年度	34年度
418人	➡	357人（△61人）	296人（△61人）

86

法立小学校

現状と課題

・昭和43年建設。その後順次増改築。3学年が1クラス。
・浸水災害を想定して、校舎、体育館とも、3メートル程度かさ上げされている。
・年間借地料　4，827千円

見直し案

・平和中の敷地を拡大して、法立小、六輪小、三宅小を統合した新たな小学校「平和小学校（仮称）」を新設する。

・全校児童数

24年度（現行）		29年度（統合後）	34年度（統合後）
234人	➡	616人（382人）	527人（△89人）

87

六輪小学校

現状と課題

・昭和41年建設。その後順次増改築。

・視聴覚室の天井がドーム状になっており、プラネタリウムを上映できる。

・年間借地料　10，055千円

見直し案

・平和中の敷地を拡大して、法立小、六輪小、三宅小を統合した新たな小学校「平和小学校（仮称）」を新設する。

・全校児童数

24年度（現行）		29年度（統合後）	34年度（統合後）
376人	➡	616人（240人）	527人（△89人）

88

三宅小学校

現状と課題

・昭和42年建設。その後順次増改築。全学年1クラス。
・三宅川に隣接しているので、水害に備えて校舎と体育館がかさ上げされている。
・年間借地料　6，433千円

見直し案

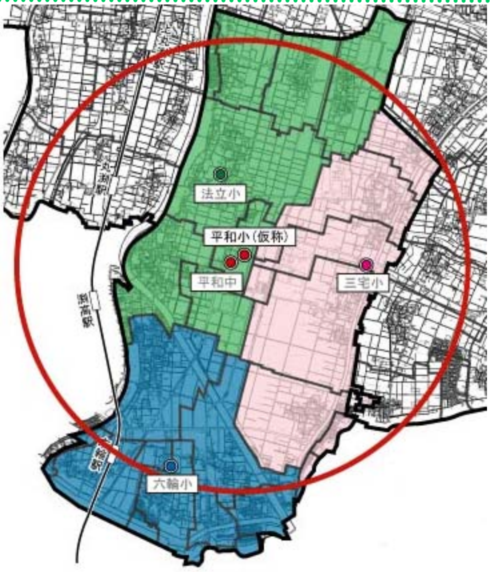
・平和中の敷地を拡大して、法立小、六輪小、三宅小を統合した新たな小学校「平和小学校（仮称）」を新設する。

・全校児童数

24年度（現行）		29年度（統合後）	34年度（統合後）
143人	➡	616人（473人）	527人（△89人）

89

平和小学校（仮称）



90

市民センター・公民館

91

明治市民センター・明治公民館

現状と課題

・昭和52年建設。耐震診断未実施。
・研修室、和室、談話室は4割程度の稼働率。
・年間借地料　2，144千円

見直し案

・明治市民センター、明治公民館については、
①敷地がすべて借地であること、②施設が老朽化していること、
を踏まえ、明治中の建て替えに合わせて、同中の隣接地に併設移転する。

92

児童センター

93

明治スズラン児童センター

現状と課題

・昭和62年建設。耐震診断未実施。
・児童クラブを併設しているが、清水、片原一色、国分いずれの小学校からも遠い場所にあり、児童は30分以上歩いて通っている。
・年間借地料　１，431千円

見直し案

・明治スズラン児童センターについては、
敷地がすべて借地であることを踏まえ、
明治中の建て替えに合わせて、同中の隣接地に併設移転する。

生涯学習施設

祖父江町勤労青少年ホーム

現状と課題

・旧祖父江高校の校舎を昭和47年に改修。建設年は不明。施設の老朽化が著しく、耐震診断も未実施。
・全体の稼働率は2割程度。

見直し案

・祖父江町勤労青少年ホームについては、施設の老朽化が著しく、耐震基準も満たしていないと予想されることを踏まえ、祖父江地区内の別の施設への移転を検討する。
・移転先の候補として、平成12年建設の保健センター祖父江支所を提案したい。

第4回
公共施設のあり方検討委員会
ー明日のいなざわが輝くためにー

平成24年7月4日
稲　沢　市